

令和6年度東部地区道徳教育研究協議会

羽生市立西中学校

【A部会（1学年）】

主 題 名 友の幸せを願う
内容項目 B 友情、信頼
教 材 名 「最後の思い出」
(彩の国の道徳「未来に生きる」)



授業の様子



協議会の様子

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 学級の雰囲気がとてもよく、生徒との良好な関係が感じ取れた。明るく、しっかり挨拶ができる生徒が素晴らしかった。
- 効果的な導入だった。以前に学習した、同じ内容項目について想起させる点もよかった。また、学級目標と関連させたことが自分事として考えるきっかけとなった。
- 役割演技がスムーズにできる学級の雰囲気が素晴らしい。生徒は一生懸命に役割演技をしていた。どのような気持ちで、その言葉を言ったのかを掘り下げると、さらに話し合いが深まる。ICTを活用するなどして、役割演技前にメモをすると話しやすいかもしれない。
- 生徒の発言に対して、「もう少し詳しく教えて」と問い返したことで、より深く考えることができてよかった。

2 指導講評

- 道徳科の授業が成立するためにも、各学校で改めて道徳科の目標を確認していただきたい。
- 道徳科の授業を構想する際、主題名、内容項目、ねらいの設定、教材の活用等があるが、生徒の実態を把握し、実態に応じた授業展開をすることが大切である。
- 役割演技をすることで、物事を多面的・多角的に考えさせることができる。役割演技をする際は、場面設定をしっかりとすることが大切になる。そうすることで、何を考えるのか明確になる。全体の前で役割演技をした後、発言の内容等について、本人たちに問い返したり、周りで見ていた生徒に聞いたりすることで、多面的・多角的に深く考えることができる。
- 教師は授業を振り返る際、本時の発問は生徒が話し合いたくなるものであったか確認したい。教科書に記載してあることを答えるだけや、閉ざされた質問にならないようにし、何を考えさせるのか明確にすることが大切である。今回のように、学級目標と関連させる等、身近なことを取り入れることで主体的な話し合いにつながる。

